

体育学部附属体育研究所創設45周年及び 研究所報第40巻の発刊に寄せて

Preface: Remarks on the occasion of publication for 45th anniversary of the foundation of the Institute of Physical Education and 40th volume the ANNUAL REPORTS OF HEALTH, PHYSICAL EDUCATION AND SPORT SCIENCE

角 田 直 也

Naoya TSUNODA Ph.D

2018年（平成30年）3月に創立40周年記念号としての体育研究所第36巻（2017年度版）の発刊から5年を経過し、第40巻を発行する事が出来き、副所長の日下部辰三教授を始め若い運営委員の先生方のご尽力に深謝申し上げる次第である。

体育研究所の歴史等に関しては上述の第36巻の巻頭言に記述しているが、改めて記述する事と致しました。

本研究所は1976年に学部長に就任された金子藤吉教授が提案された国士館大学における体育学の推進を図る研究所を設置し「学部教員の研究業績を累積し、大学院を設置する」という学部将来構想の一つとして、1977年（昭和52年）4月、世田谷キャンパス5号館の2階の教室（学長室）を改修し、2つの研究室と集会室から出発致しました。初代研究所長は本学の運動医学の非常勤講師であり当時の運動医学の権威者であった整形外科医の豊田章教授（故人）が筑波大学を定年退職され就任された。顧問に当時中京大学大学院教授、日本体育学会会長で我が国の体育原理の権威者であった前川峯雄先生（故人）、筑波大学名誉教授で武道学の権威者故松本芳三先生（故人）、国士

館で初めて開催した日本体育学会大会組織委員長（1970年11月）、教養部長であった坂井正郎教授（故人）が就任された。また、当時の文部省スポーツ課長を退職され、本学教授として奉職された望月健一先生より「国策としての体育学の将来的役割」等に関する大変貴重ご意見を研究所運営委員会で拝聴し、体育研究所の学内における役割と研究活動の推進等に関する議論が活発になされていたことを今も鮮明に記憶している。

豊田所長の基本理念は、「体育学部の専任教員全員が参加するプロジェクト研究チームを編成し、体育・スポーツ・健康に関する研究結果の構築」であった。昭和50年代は体育系私立大学が大学院を設置した時代であり、体育学会（当時）や体力医学会等に於いて、大学院生の研究発表が活発に行われていた。豊田所長は、構想の一つとして、多数の国士館大学院生の研究発表や学術論文掲載の実現を挙げていた。その基盤として、体育研究所は学術研究工場であり、良い製品（学術研究成果）を組織構成員全員が協力し切磋琢磨し創ることの重要性について専任研究員であった小生に語っておられた。

研究所の設置から45年が過ぎ、大学院スポーツ・システム研究科スポーツ・システム専攻（修士課程2001年、博士課程2003年）が設置されて21年が経ち、体育科学の修士及び博士の学位取得者を多数輩出している。研究所の設置当初は体育学科のみの1学科であったが、武道学科、スポーツ医科学科及びこどもスポーツ教育学科と4学科に拡大し、研究分野も多方面に広がってきている。スポーツ医科学科を基盤とする大学院救急システム研究科救急救命システム専攻（修士課程2010年、博士課程2013年）も設置され、体育教育やスポーツ活動を支える研究者の養成機関が設置された。従って、研究プロジェクトも多岐の分野に亘って編成され、外部資金の研究費獲得者も増加してきており、研究所としての役割も果たしてきているものと思われる。

昭和55年（1980年）に発行された国士舘大学体育研究所報は本年度（2022年3月発行）で40巻となった。発行から昨年度までの発表論文数を

表1に示した。研究報告論文は1980年（初巻）から1997年（16巻）までは毎年10編以内であったが、大学院スポーツ・システム研究科修士課程が設置された2001年（20巻）から博士課程が設置された2003年では15編から20編を超えている。2010年以降は年度により編数に変動がみられるがここ数年は20編を超え、本巻では27編の執筆がなされている。研究所設置の主旨である体育・スポーツ及び健康に関する各領域からの知見を得る目的が一応充たされている事と思われるが学外の研究者からのご批評を戴き更なる研究力の向上を求める必要性を感じている。

創設から45年を経て、今後の体育研究所の役割は体育学部教員が一致団結して、体育・スポーツ科学研究プロジェクトにより推進し、人類の運動能力の向上、科学的エビデンスに基づいたコーチング学の確立や健康で元気な日本人育成への貢献を望みたい。

表1 体育研究所報論文数の変遷

年代	巻	投稿数	
S55	1980	1	4
S56	1981	2	7
S58	1983	3	9
S59	1984	4	5
S60	1985	5	5
S61	1986	6	9
S63	1988	7	8
S64/H 1	1989	8	7
H 3	1991	9	8
H 4	1992	10,11	9
H 5	1993	12	8
H 6	1994	13	8
H 7	1995	14	10
H 8	1996	15	7
H 9	1997	16	10
H 10	1998	17	13
H 11	1999	18	13
H 12	2000	19	12
H 13	2001	20	17
H 14	2002	21	20

年代	巻	投稿数	
H 15	2003	22	22
H 16	2004	23	18
H 17	2005	24	18
H 18	2006	25	16
H 19	2007	26	12
H 20	2008	27	18
H 21	2009	28	18
H 22	2010	29	21
H 23	2011	30	25
H 24	2012	31	22
H 25	2013	32	21
H 26	2014	33	13
H 27	2015	34	15
H 28	2016	35	19
H 29	2017	36	25
H 30	2018	37	21
H 31/R 1	2019	38	26
R 2	2020	39	24
R 3	2021	40	27
合計			570

S：昭和 H：平成 R：令和